

子どもたちを支える者にとって、子どもの変化、成長は嬉しいものです。行動には理由があるように、その変化や成長にも理由やきっかけがあります。つまり、いつか失敗した時にその理由にフォーカスし、なぜ失敗したのか、どうしたらできるようになるのかを考えることが多いですが、できた時、できている時にもその理由に着目し、なぜできたのか、できているのかを考え、紐解くことで、新たな視点やステップが見えることがあります。

## 「〇〇だから、行かない」から「〇〇だけど、行く」への変化を「なぜ??」の視点で考える

「〇〇だから、行かない」「〇〇だけど、行く」2つの表出を比べた表

「〇〇だから、行かない」	本人の選択	「〇〇だけど、行く」
行かないことを決められる 	<b>自己決定</b>	行くことを決められる 
行かない理由がある 	<b>理由</b>	行きたくない理由がある 行く理由もある 
優先順位は「〇〇」が上 行かない方にメリットがある	<b>価値・メリット</b>	優先順位は「行く」が上 行く方にメリットがある
伝えられる 	<b>伝える</b>	伝えられる 

### 自己決定

「行く」「行かない」に関して、良い悪いではなく、どちらの場合も自己決定することができます。

### 理由

「〇〇だから」、「〇〇だけど」を言っている時点で自分の内面、感じ方を表現できています。「〇〇だから行かない」の場合は〇〇を改善、軽減することができれば、可能性は広がります。「〇〇だけど、行く」には行く理由が本人の中にありますね。

### 価値・メリット

価値、メリットは本人の状態やそれまでの経験によって変化し、その時点での選択とその結果が次回の選択に生かされ、理由に反映されていきます。

「〇〇だけど、行く」の前の姿として「〇〇だから、行かない」が言っていたことが、その姿をつくる土台となっていたことも見えてきました。つまり、「〇〇だから」という自分にとっての理由を本人がわかり、伝えられるか、そして周りがキャッチできるかということが重要になります。それがあれば、修正や調整をしながらまたチャレンジすることができることも増えるのではないのでしょうか。そして、「やってみたら～はできた」「大丈夫だった」が次につながると考えます。

感じ方は人それぞれです。教育相談では、本人がどう感じているかについて、こちら側の感じ方や物差しだけで判断することのないよう、丁寧に観察したり本人に確かめたりしながら、より本人の感じ方や捉え方に沿った教育相談を行っています。

「やりたい」で動いた子、「やらなくちゃ」で動いた子、動機は様々ですが、動いてみた結果、本人にとってのメリットや楽しさを感じられたか、達成感や充実感があつたかがポイントになりますね。だからこそ教師は一日一日の授業やかかわりを大事にしていく必要があると考えます。

今日の「わかった」「できた」が未来（あした）へつながるように